春季四国 高校野球

最終日

県勢決勝 明徳4年ぶりV

倉内決勝打 高知に2―0

第76回春季四国地区高校野球大会最終日は30日、春野球場で決勝を行い、県1位校の明徳義塾が同2位校の高知を2―0で破り、4年ぶりの優勝。2004年に1県2校代表制になって以降、2年ぶり2度目の県勢決勝を制し、優勝回数で並んでいた高知を上回る最多12度目の頂点に立った。高知の2年ぶり制覇はならなかった。

明徳は0―0の六回、倉内の中越え適時三塁打と寺地の右前適時打で2点を先制。投げては内山、小林とつないで高知打線を散発4安打に抑えて零封した。

▽決勝

高知	000	000	000	0
明徳	000	002	00×	2

▽三塁打　倉内▽犠打　高2（木村、高木）明1（江口）▽盗塁　高1（山平）明0▽失策　高1（高木）▽試合時間　2時間2分▽審判　中川、野町、下西、柏井

【評】3安打の明徳が中盤のワンチャンスを生かして挙げた2点を継投で守り切った。打線は五回まで1安打と振るわなかったが、六回、相手失策を足掛かりに得点圏に走者を進め、2番倉内、3番寺地が連続適時打。先発内山は緩急、2番手小林は球威と持ち味を生かした投球で、散発の単打4本に封じた。

高知投手陣も辻井、平とつないで6度の三者凡退に仕留める上々のリレー。打線は5四球を得て再三塁上をにぎわしたが、2度の盗塁失敗もあって三塁を踏めず。七回無死一、二塁も犠打失敗で逸するなど、ホームが遠かった。

（横田幸成）

「らしさ」全開 ミス逃さず

打てないまでも、ミスに乗じて勝つ―。ともに春の四国最多優勝を懸けた高知との一戦で、「らしさ」を発揮した。六回、失策で無死から走者を出した相手の隙を逃さず、堅守と粘投で零封。選手たちは「これが明徳野球」と胸を張った。

昨秋以降の対戦はこの日まで2戦2勝だが、馬淵監督はセンバツ16強のライバルを「実力差は紙一重」と警戒。「一つの失敗が命取り」という予想通りの展開になった。

打線が辻井を攻めあぐねる中、先発内山が緩急を駆使して毎回走者をしのぐ。六回から救援の小林が初めて3人で終わらせた直後にチャンスが来た。失策出塁の小林を江口が1球で二塁に送り、続く倉内が中堅後方へ弾丸ライナー。「前の打席で詰まらされたので狙っていた」と外の136キロ速球を弾き返した三塁打で、センバツで好投した難敵から1点をもぎ取った。

倉内、寺地以外は音なし。打線の強化は課題だが、指揮官は「全国級の投手からそうは打てんやから」。七回無死一、二塁で相手バントを三塁封殺するなど、今大会で初めて無失策で支えた守りを評価する。

攻守とも「甲子園で勝てるチーム」への道の途中。選手たちは「あと2カ月、ここからです」とレベルアップを誓った。

（横田幸成）

明　徳2−0高　知

【高	知】	打	安	点	振	球
⑨	三枝	4	1	0	0	0
⑦	木村	3	1	0	0	0
⑥	門野	2	0	0	0	2
③	山平	4	1	0	3	0
⑧	黒岩	2	0	0	0	2
②	高木	3	1	0	0	0
⑤	福井	4	0	0	1	0
④	森平	2	0	0	1	0
H	内田	1	0	0	1	0
4	西村侑	0	0	0	0	0
①	辻井	1	0	0	1	1
H	天関	1	0	0	0	0
1	平	0	0	0	0	0
犠併残	207	27	4	0	7	5

【明	徳】	打	安	点	振	球
⑨	江口	3	0	0	0	0
⑧	倉内	2	1	1	0	1
②	寺地	3	2	1	0	0
③	竹下	3	0	0	2	0
⑤	岩見	3	0	0	2	0
⑥	三岡	3	0	0	0	0
⑦	常盤	3	0	0	1	0
④	坂本	3	0	0	0	0
①	内山	1	0	0	0	0
1	小林	2	0	0	0	0
犠併残	102	26	3	2	5	1

投手	回	打	安	振	球	責
辻井	6	22	3	4	1	1
平	2	6	0	1	0	0
内山	5	19	3	4	3	0
小林	4	15	1	3	2	0

【明徳義塾―高知】6回裏明徳1死二塁、倉内が均衡を破る中越え三塁打を放ち、塁上でガッツポーズ（写真はいずれも春野球場＝佐藤邦昭撮影）

2023年5月1日　高知新聞